

かきざきはきょう
蠣崎波響と門人たち

- 5 -

伊達市梁川美術館
では、令和8年度企画
展「蠣崎波響と門人た
ち」を開催しています。

蠣崎波響の門人に
熊坂適山くまざか とうさんがおり、この
適山の弟に蘭斎らんさいがいま
す。蘭斎は、寛政11年
(1799年)に伊達
郡市柳村(現在の伊達
市保原町)に生まれ、
名を健・助嘉、字は主
計、蘭斎と号しました。

江戸に出て漢方医
を、後に蘭学を学びま
した。天保11年(18
40年)にはオランダ
で刊行されたオランダ
語文法の教科書『グラ
マティカ』を翻刻し、
『和蘭文典前編』と題
して出版しました。そ
の後、箕作阮甫みづくり げんぽが『和
蘭文典前編』として天
保13年(1842年)
に再販し、多くの蘭学
者に利用されました。

この頃、蘭斎は江戸
でイギリス製の地球儀
を購入したと考えられ
ます。この地球儀は、
イギリスのベッツ社製
の携帯用で、「洋傘」と
類似する構造を持ち、
折り畳みができます。

日本については詳し
く描かれ、松前・江戸・
みやこ(京都)・大阪・
長崎などの地名が確認
されます。

企画展では、蘭斎が
購入したこのイギリス
製地球儀を展示してい
ます。是非、幕末の世
界地図を間近にご鑑賞
ください。



イギリス・ベッツ社製
携帯用地球儀



市長コラム 第86回

「伊達市合併20周年
記念式典を終えて」

須田 博行

過去の
コラム



6月28日、伊達市合併20周年記念式
典が、伊達市ふるさと会館で開催され
ました。勇壮な霊山太鼓で幕が上がる
と、豪快なバチさばきから繰り出され
る迫力ある響きに会場が魅了されます。
そして式典では、合併20周年を記念
し制定した伊達市初の名誉市民称号を
故三浦弥平氏みうら やへいにお贈りしました。福島
県初のオリンピックであり、また第1
回箱根駅伝に5区山登りで出場してい
ます。私が初めて弥平翁にお会いし
たのは、箱根芦ノ湖にある箱根駅伝
ミュージアムでした。歴代の名選手の
中で一番目に掲げられていたのが弥平
翁の写真でした。伝統ある箱根駅伝最
大の功労者の証です。担当の人に「ど
こから来られました」と問われた私
は、「弥平さんの故郷伊達市です」と
誇らしく答えたことを思い出します。

また今回の式典では、大島花子おおしま はなこさん
に歌声を披露していただきました。大
島さんは坂本九さんの長女で、命の尊
さをテーマに全国各地でコンサートや
講演を行っています。私が初めて大島
さんにお会いしたのは、昨年11月につ
きだて花工房で行われた「大島花子コ
ンサート」でした。心に深くしみる歌
声に感動し、20周年式典で歌ってもら
いたいとその時すぐに思いました。式
典では、「上を向いて歩こう」や「見
上げてごらん夜の星を」など誰もが
知っている曲のほか、合唱曲として全
国で歌い継がれている「心の瞳」を、
桃陵中学校の皆さんと披露していただ
きました。そして曲の合間に大島さん
は話されました。「41年前、父は、『いっ
てきます』と言って出かけて行ったの
に、『ただいま』と帰ってくることは
ありませんでした。ふたつの言葉はい
つもセットだと思っていた私は、この
悲しみを忘れることはできませんで
した。でも今はその悲しみと共に歩ん
でいくことが大切だと思っています。東
日本大震災を目の当たりにしたとき、
私はいてもたってもいられませんでした。
大切な人を突然失った自分だから
こそ寄り添えるのではないかと被災地
に向かいました」と。そうした大島さ
んの想いが込められた歌声が、聴く人
の心に響き、会場を深い感動で包んだ
のだと思います。

式典後、多くの人から「温かくすば
らしい式典だった」とのお話をいただ
きました。20年の節目をこうして迎え
られたことを、市民をはじめ関係の皆
さまに心から感謝します。

地域の魅力
ふる里再発見